

青花 せいかわらばん 瓦版

2014年7月25日発行 通巻第128号
 発行 佐賀県 西松浦郡 有田町 黒牟田 しん窯青花
 電話 0955-43-2215 FAX 0955-43-2889
 URL <http://shingama.com/shingama.html>
 E-Mail Address shingama@po.saganet.ne.jp

発行責任者 梶原茂弘

— 第百貳拾八号 —

(2014年夏号)

全国伝統的工芸大会に向けて

全国に伝統産業といわれる地区が100箇所位ありますが、この度漆の産地輪島と磁器発祥の町有田と伝統工芸士の交流としてコラボ作品を創るという企画が誕生しました。伝統工芸士とは、匠の技を極めた職人さんに与える経産省認定の称号です。しん窯の伝統工芸士橋口博之（49）に白羽の矢を当てていただき、この度輪島の職人さん達とコラボ事業が始まりました。

これから図面を引いて型を決め、お互い加飾部門で競演しようと話がまとまりました。プロデューサーを輪島塗の桐本さんをお願いしました。全国伝産大会が11月に佐賀で開かれますので、わずか5ヶ月しかありません。肥前と能登を往復して、お互い後世に残る作品に仕上げてみたいと職人魂に火を付け燃やしていました。今からどんな作品が誕生するかワクワクしています。

第31回 伝統工芸の国内最大の祭典
伝統的工芸品月間国民会議 全国大会(佐賀大会) 今年11月、有田町をメイン会場に開催!!

平成26年 **11月20日(木)** → **24日(月)**

有田町/森の博記念堂
 伊万里市/伊万里・有田焼伝統産業会館 ほか



楽しい趣向が盛りだくさん!

- ・伝統的工芸品を一堂に展示・販売
- ・製作体験コーナー・製作実演コーナー
- ・佐賀県内の美味しい食品など特産品・土産品の販売

11月も是非、伊万里・有田焼産地へお越しください。

主 催 経産省 伝統的工芸品月間推進会議 (一財)伝統的工芸品産業振興協会
 日本伝統工芸士会 佐賀県伝統的工芸品月間推進協議会
 お問合せ先/佐賀県農林水産商工本部 有田焼創業400年事業推進グループ
 TEL.0952-25-7231 FAX.0952-25-7392

2016年は日本磁器誕生・有田焼創業400年で
 2016 - The Birth of Japanese Porcelain: Arita Ceramics 400th Anniversary

国指定伝統的工芸品

伊万里・有田焼
 白磁の美しい彫りた美しい紋様
1600年の歴史の中で発展した伊万里・有田焼は、一般に「吉野窯」「藤原門」「黒島窯」の3様式に大別されます。白磁の「花瓶」等から磁器、使いやす、高い耐火度で多くの工芸品を生み出しています。

唐津焼
 平べったい土味の手しめ焼
唐津焼は、磁器、磁石、土器の3種類に大別されます。磁器の代表として、白磁の「花瓶」等から磁器、使いやす、高い耐火度で、第一級の美品として、多くの美品を生み出して人気があります。

県指定伝統的地場産品

佐賀錦
 昔ながらの織入にある、美しい
佐賀錦は、昔ながらの織入にある、美しい。...

鹿島錦
 伝統の中で形が次々
鹿島錦は、伝統の中で形が次々変化する。...

鍋島織通
 中国伝来の技術による
鍋島織通は、中国伝来の技術による。...

白石焼
 磁器の技法に
白石焼は、磁器の技法に。...

名尾手漉和紙
 自家栽培の原料による
名尾手漉和紙は、自家栽培の原料による。...

浮立面
 人々の思いが込められた
浮立面は、人々の思いが込められた。...

肥前びーとろ
 オフカに生命を
肥前びーとろは、オフカに生命を。...

諸富家具・建具
 木製土器の家具
諸富家具・建具は、木製土器の家具。...

西川登竹細工
 織物に技が光る
西川登竹細工は、織物に技が光る。...

弓野人形
 心細く
弓野人形は、心細く。...

2016年は日本磁器誕生・有田焼創業400年で
 2016 - The Birth of Japanese Porcelain: Arita Ceramics 400th Anniversary

佐賀の音100選

佐賀新聞創刊130周年記念企画として「佐賀の音100選」を実施し、ふるさとの魅力を再発見し、次代につなげていきますという主旨で募集がありました。私も賛同して、3編提出しました。以下、紹介します。

（陶石を砕く音）

磁器発祥の地、有田泉山の陶石が発見されてまもなく400年を迎える。2016年は有田焼創業400年だ。その陶石は先ずスタンパーで粉碎され、パウダー状になるまですりつぶされる。スタンパーの昇降の動力は昔は水車だった。今は電動モーターである。陶石を打ち砕く迫力はすごい。鉄を付けた棒がカムに乗ってスルスルと昇ったと思ったら、重力で垂直に落ちる。陶石と杵の底の強靱な金属がぶつかりあって思わず耳をふさぎたくなるようなごう音だ。

シュルシュルシュルシュルドカーンこの音の繰り返しである。何百回、何千回繰り返したらすべるような細かい粉になるのだろうか。この粉を水簸して良質な陶土が生まれてくる。有田焼磁器の原料だ。水車から電動モーターへ、時代と共に設備や道具は進化したけれども、陶石と鉄の塊のぶつかる音はド迫力満点であり、男の職場だ。

シュルシュルシュルシュル・ドカーン規則正しく繰り返され続ける。

（薪窯窯焼き風景）

秋の陶磁器まつりでは薪窯響演が開かれる。窯焚きの燃料も薪、石炭、重油、ガスと変化していった。昔なつかしい松煙もすっかり消え失せていく。2年後は日本磁器誕生・有田焼創業400年を迎える。有田焼の原点をみつめ薪窯がかりうじて残っている五つの窯元で一斉に窯焼きイベントを行い、松煙の風景を再現して先人達への感謝の気持ちを奉げようという試みだ。

薪は松の木が主に使われる。炎が伸びるし、有田焼は炎で磁器を包まないで白玉の磁器が誕生しないのである。窯焚きは約20時間以上を要する。

あぶり、ねらし、攻め、あげ火など1,300℃の高温まで高める為に様々な技法を用いる。先人達の勤と体験から会得された焼成技法を継承して窯焚きを極めてきた。

あぶりは雑木を使って徐々に温度を上げていく。パチパチと間隔をあけて乾いた音がする500℃まで上がった頃から雑木を入れる頻度が増えて、パチパチ、パチパチと連続音に変わる。

いよいよ窯焚きクライマックスの攻めに入ると、雑木から松の木に替わり、間髪を入れず窯の小さな入口から薪を投げ込む。この時勢いよく煙突から黒い煙が立ち昇る。炎の長さを見る天井の穴からボウーボウーという炎の吹き出す音も聞こえる。パチパチ、ボウーボウーとまるで炎のアンサンブルだ。

ここは窯焚きさんが炎を切らさないよう集中して、熱射を浴びながら人と炎の息詰まる闘いだ。約20時間以上優しい炎の音から激しい強い炎の音まで火の洗礼を受けて1300℃に達して数日後、有田焼白玉の磁器誕生を待つのである。



(めおとしの音)

今ではめずらしくなったが、窯上りした商品ひとつひとつを鉄の棒でたたいて調べていた。チーンという金属音に混じってたまにジャンという鈍い音が聞こえる。前者は上等で後者はどこかに貫入や割れている証しである。

この道具をめおとしとっている。めおとしの音は、今窯から焼き上がったばかりで出荷まらない商品の選別作業なのである。美空ひばりが唯一歌う音頭の有田チロリン節は、このめおとしの音が原点ではあるまいか。



「めおとし」

小塚神色ミニコンサート

世界焔の博覧会から早18年が過ぎました。その時の同志である小塚興児さん（当時電通）の御奥様が歌手デビューされたそうです。まずは黒牟田・応法地区の皆さんに聴いてもらおうと企画しました。詳しくは、次号でお知らせいたします。

日時 平成26年9月15日（月・祝）、午後3時～4時

場所 黒牟田街なみ集会場 大広間



プロフィール

吟・歌・吟杖流神色会 会長
キングレコード専属
神道夢想流杖術
財団法人 全日本剣道連盟
杖道教士八段

職人さんのひとりごと — 新入社員紹介 —

～第24回・堀切美由紀さん～



昨年11月に入社しました堀切です。

上絵歴は37年と長いのですが、染付はまったくの素人で、素焼にさわるのも恐々でした。染付ができれば、色鍋島や古伊万里等、絵の幅が広がるかなと思って「やってみよう」と再チャレンジしました。が、考えが甘かった、8ヶ月たった今でもうまできません。線引きで悪戦苦闘の毎日です。上絵の仕事が出来る時「ほっ」とする私です。

私の今思う事。私の父56才で、母62才で、主人53才で亡くなりました。この人達はまだまだいろんな事をやりたかったらうなと思うと、今自分がしたいと思った事はやってみよう、しなければ、と思っています。（子供の頃やってみたかったのを50才前で3年続けました。今は中学の時にやっていたのを再チャレンジ中、うまくできない）何かは内緒！

新入社員は10年ぶりだとか。社員の皆さん、（男性陣は特に）若い子と期待してた人、50代半ばのおばさんですみません。覚えが悪いけど、これからよろしくお願ひします。